

1 単元名 「老上中 ESDプログラム」～老上の持続可能なまちづくりにせまる！！～

2 単元の目標

- 地域の魅力や課題を調べ、持続可能なまちづくりに関する基礎的な知識を身につける。情報収集・整理・発信の技能を習得する。 (知識・技能)
- 地域の魅力や課題を多面的・総合的に捉え、持続可能な向上策および解決策を考え、適切な方法で表現・発信する力を育む。 (思考・判断・表現)
- 地域の人々や環境に関心を持ち、協働して魅力向上および課題解決に取り組む姿勢を育てる。自分の役割や責任を自覚し、主体的に行動する態度を養う。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1)教材観

老上中学校が位置する草津市は、都市化が進む中にも豊かな自然環境や歴史的資源が息づく地域である。日常生活に密着した交通の利便性や商業施設の充実といった都市的魅力の一方で、緑地の減少や人口構成の変化、高齢化など、持続可能な社会づくりに関わる課題も顕在化している。

本単元では、こうした地域の魅力と課題を「生きた教材」として活用する。地域協働合校やコミュニティスクールの理念を踏まえ、ESDの視点から地域の教育力を積極的に取り入れることで、生徒が身近な社会から学び、持続可能なまちづくりを自ら考える契機とする。地域行事や住民の取組を含めた多面的な学習を通して、生徒が郷土に誇りをもち、よりよい老上の未来を描く力につながることを目指す。

(2)生徒観

生徒は日常的に地域で生活するなかで、老上学区一帯の魅力や課題に触れる機会はあるものの、それらを「自分自身のこと」として深く捉え、比較・考察したり、他者と意見を交わしたりする経験は必ずしも十分ではない。また、社会や地域に主体的に参画する場も限られがちである。

本単元では、地域の方々との交流、フィールドワーク、地域イベントへの参加など、実体験を核とした学習活動を取り入れる。これにより、生徒が自ら問いを立て、情報を収集し、分析し、考えを表現する「考動（こうどう）」の姿勢を育む。また、協働的な学びを通して、多様な価値観を尊重する態度や自己肯定感の向上も図る。生徒が地域の未来に関心をもち、自分たちにも貢献できるという自覚を高めながら、持続可能な社会の創り手として成長することを期待する。

(3)指導観

本単元では、「老上のまちにはどんな魅力があり、どんな課題があるのだろうか？」という中心的な問いを据え、生徒が地域社会を多角的に捉え、持続可能なまちづくりに関して主体的に考え、行動へとつなげることをめざす。これは学校スローガン「考動（こうどう）」と「幸動（こうどう）」の具現化にもつながる取組である。

教師は、生徒の問いや気づきを大切にしながら、情報収集の手法や分析の視点を丁寧に支援する。また、地域協働合校や学校運営協議会との連携を活かし、地域住民・保護者・関係機関などと協働した学習機会を創出することで、地域とともにある学校づくりを推進する。さらに、ICTの活用や安全面への配慮など、学習環境の整備にも努め、生徒が安心して意見を表明し、主体的に学びに向かえる場を整える。

教師は伴走者として、生徒一人ひとりが地域の現状を深く理解し、課題解決に向けた建設的な視点を育むよう支援し、持続可能な社会の創り手として成長する姿を後押しする。

(4)ESDとの関連

本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・相互性：人・自然・社会のつながりを意識して老上の魅力および課題を捉える
- ・有限性：資源や空間の限りを理解し、持続可能な使い方を考える
- ・責任性：自分たちの行動が未来に与える影響を考え、責任ある選択をする

本学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・多面的・総合的に考える力
- ・他者と協力する態度
- ・進んで参加する態度

本学習で変容を促すESDの価値観

- ・地域の交通、建物、緑地、福祉などを調べ、より持続可能なまちの姿を考える
- ・世代間の公正（未来の世代への責任）

達成が期待されるSDGs

- 目標 11 住み続けられるまちづくりを
- 目標 13 気候変動に具体的な対策を
- 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう

4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
①地域の魅力や課題に係る様々な知識について理解している。 ②学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図、絵等を用いて、それらに関係づけながら情報を整理する力を身につけている。	①地域の魅力や課題を的確に捉え、持続可能なまちづくりに関する考察ができています。 ②持続可能なまちづくりに向けた提案を論理的に構成し、適切な方法で表現ができています。	①地域の魅力や課題について、主体的に学習に取り組む姿勢が見られる。 ②協働的に課題解決に取り組む姿勢や、自らの役割を果たす態度をもっている。

5 単元の指導計画(全10時間)

学習活動	学習への支援	評価備考
1、持続可能なまちづくりについて認識するとともに、今後の学習の見通しを持ち、魅力あるまちづくりを自分事として捉える意識を高める。 ・「便利なまち」と「幸せなまち」は同じであるか、自分の経験と照らし合わせて考える。 ・地域の写真・地図・歴史資料・統計資料から、老上地域の魅力と課題を知る。 ・グループで「老上の好きなところ・もっと良く	・地域の古い航空写真や現在の空中地図を比較提示し、都市化と自然環境の変化が視覚的に分かるようにする。 ・「便利さ」と「幸せ」の違いを考えるために、福祉・安全・コミュニティ・環境などの観点から具体例を提示し、ESDの価値観に触れさせる。 ・グループディスカッションでは、「話す・聞く・まとめる」の役割分担を示し、対話的	ウ① (主体的) 1時間

<p>なっしてほしいところ」を出し合い、共有する。</p>	<p>な学び方を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の学習が地域とつながる実践的な活動になることを説明し、「まちづくりは自分たちにも関わること」という見通しを持たせる。 	
<p>2、私たちのまちには、どんな魅力とどんな課題があるか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通・建物・緑地・福祉・水環境など、テーマ別に地域探究を行う。 ・校区内フィールドワーク、地図・統計資料・自治会資料の調査を行う。 ・得られた情報をグループ内で整理し、老上の魅力と課題の洗い出しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民・自治会・福祉施設の方との交流を設定し、生徒が実体験を通して地域の現状を理解できるようにする。 ・ICT（タブレット・地図アプリ・ロイロノート等）の効果的な使い方を教え、データ収集や整理の方法を支援する。 ・フィールドワーク前に安全指導を行い、緊急時の行動やルート確認も徹底する。 ・グループ活動の効率化のため、役割分担（記録・写真撮影・案内役・まとめ役）を決め、協働の大切さを指導する。 ・集めた資料や聞き取り内容を、ESDの視点（環境・社会・経済）で捉え直す問いを投げかける。 	<p>ア① (知・技) イ① (思判評)</p> <p>3時間</p>
<p>3、地域の方や施設の方たちとの交流を通して、さらに学びを深める。</p> <p>テーマ「老上の魅力をさらに引き出し、自分で設定した課題をどうすれば解決できるだろうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力や課題別にグループをつくり、改善アイデアと持続可能な未来のビジョンを検討する。 ・地域の人へのインタビューやアンケートを実施する。 ・相互性・有限性・責任性など、持続可能性の視点を意識して考察する。 	<p>①インタビュー計画の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に配慮した質問づくり（肯定形・オープンクエスチョン）やマナーを教える。 ・グループ内の役割（質問者・記録者・進行役・撮影者）を明確にし、責任をもって取り組めるようにする。 ・インタビューの目的を共有し、「地域の声を未来に活かす」という意識付けを行う。 <p>②地域の方へのインタビュー実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な移動ルートの確認や班行動のルールを徹底する。 ・記録の取り方（キーワードメモ、要点整理、録音方法）を練習し、本番で活用できるようにする。 ・対話を通して「地域に支えられて生きている」という相互理解の価値を実感させる。 <p>③インタビュー結果の整理と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マインドマップ・表・グラフ・スライドなど、目的に応じた整理方法を具体例とともに提示する。 ・ESDの視点（相互性・有限性・責任性）のどれに当てはまるか照らし合わせながら深い 	<p>ア① (知・技) イ① (思判評) ウ② (主体的)</p> <p>3時間</p>

	<p>考察を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループでの意見交換では、多様性の尊重や話し合いのルールを再確認し、安心して意見を出せる雰囲気づくりを支援する。 	
<p>4、学んだことを行動・発信につなげていく。</p> <p>テーマ「私たちにできることは何だろうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能なまちづくりに向けて、魅力向上や課題解決の提案をまとめる。 ポスター・スライド・動画・新聞など、多様な方法で表現する。 (スライド資料作成、CM動画作成、地元TVやラジオに投稿、チラシ配布、学校ホームページ掲載等) 地域の方や他学年への発信を想定し、発表練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案が実現可能で持続性のあるものになるよう、「費用」「効果」「協働者」「継続性」などの観点を示して助言する。 ポスターやスライドの構成(導入→現状→課題→提案→未来像)のモデルを提示し、見やすいデザインの工夫も指導する。 提案内容にESDの価値観(未来への責任、協働、資源の大切さ)を盛り込むよう問いかける。 発表練習では、声の大きさ、速度、相手意識などプレゼン技法もアドバイスする。 	<p>ア② (知・技) イ② (思判表) ウ② (主体的)</p> <p>2時間</p>
<p>6、活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域へ出向いて成果を発信したり、学校内で共有会を行ったりする。 「自分の成長」「地域への思い」「これからの行動」について個人・グループで振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の場での姿勢やマナーを事前に確認し、「伝える相手」を意識させる。 発表後に質問されそうな内容を予想し、答え方を事前に準備できるようにする。 振り返りでは、活動前後での意識の変化を自覚できるように「比較して書く」ワークシートを活用する。 地域とのつながりや今後の行動意欲につながるよう、温かいフィードバックを行い、自尊感情の向上も図る。 	<p>1時間</p>